

a 学校教育目標	自らの夢に向かって考え、行動できる子供の育成 －自ら伸びる とともに伸びる－	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自ら考え、ともに考え、行動できる子供の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 「自ら伸びる とともに伸びる」主体的な学び合いの姿がある学校 ・確かな基礎学力をもとに、主体的・対話的で深い学びをめざす子供の姿がある学校 ・誇りとやりがいをもち、児童・保護者・地域と共に主体的に学び高まり合おうとする教職員の姿がある学校 ・学校の取組を理解し、夢や志をもち安心して生活する子供の姿を応援する保護者・地域の姿がある学校
----------	---	----------------------	---

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標		d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2 月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評 価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎学力を定着させ、主体的・対話的で深い学びを進める力の育成を図る。	語彙力・認知能力の向上を図り、基礎学力の定着をめざす。	・少人数指導の推進と基礎・基本の反復練習の徹底(効果的な帯タイムの計画・実施) ①文法・ことば・聞き取り問題等の実施 ②認知機能トレーニングの実施	国語科・算数科・理科の単元末テスト結果(各学期)	各学期各教科 知識・技能 平均85点以上 思考・判断・表現 平均70点以上	知識・技能 国語 86.3 算数 87.1 理科 90.5 思考・判断・表現 国語 89.4 算数 78.0 理科 76.8	知識・技能 国語 88.0 算数 86.3 理科 86.3 思考・判断・表現 国語 85.2 算数 75.5 理科 75.2	100%	A	どの項目においても、目標値を達成している。基礎的な知識は身についてきていると判断できる。前期と後期を比べると、上がっているものもあれば、下がっているものもある。問題や学習の難易度が上がったのではないかと考えられる。 傾向として、①題意を解釈すること②論理的な記述や思考の2点が苦手である。	計算カードや音読等、基礎的な力をつけていく取組は今後も継続して行う。 数値は超えているが、題意を解釈する点において課題がある。 題意を解釈するためには、読解力を伸ばす必要がある。まずは時事を扱った話し合いや長文等の学習経験を積み、知識量を増やす。次に、論理的思考力を伸ばすために、上位語→下位語・言葉の仲間集め等にとりくむ。さらに、筋道を立てた話し方、書き方の指導を行い、それを使って説明したりふりかえりを書く活動を行う。	○			組織的な授業改善と先生と児童との良好な関係が学力向上につながっていると考える。
			・図書館教育の積極的推進 ①読み語り等の多様な読書活動の展開 ②「読みたくなる」環境づくり	年間読書冊数 1・2年生50冊、3年生40冊、4・5・6年生30冊 月間読書冊数 全児童1冊以上	達成した児童の割合 80%以上 達成した児童の割合 95%以上	92%	90%	100%	B	年間目標冊数は、達成することができた。数値が落ちている学年がある。不登校傾向の児童が借りる時間を確保できないことや電子図書の導入によりchromebookで読書を楽しむことができるようになったことも要因の一つと考えられる。 月間読書冊数は、目標の数値を達成できなかった。読む力に個人差があり、本を借りに行く習慣が付いていない児童がいる。	年度末の表彰、来年度への目標冊数の振り返りカードへの記入などで、来年度への読書意欲の向上を図る。 司書と司書教諭、子ども司書、委員会、高学年が連携して、今年度の取組の引継ぎを行い、来年度に活かす。 課題のある学年の読書傾向を把握し、本の紹介や図書室に行っで借りて読む時間を確保する。				
		主体的・対話的で深い学びを実現し、「学び続ける」ためのコンピテンシー(知識・情報、思考力、表現力、主体性)を育成する。	・「問いの設定・探究・解決」の場と「学びのふり返り」がある授業づくりの推進 ①ゴールイメージからの単元・授業構成 ②「指導と評価の一体化」「メタ認知向上」をめざしたふり返りの工夫と実施 ③課題解決のツールとしてのICT活用	教職員アンケートによる評価 「ゴールイメージから授業が構成できている」 「明確な目的を持った学び合いが設定できている」 「学びに応じたふり返りが実施できている」 「課題解決のツールとしてICTが活用できている」 児童アンケートによる評価 「『学び合い』の場面では、自分の考えを友だちと伝え合うことができている」 「『ふり返り』の場面では、授業の初めより自分の考えが深まっている」 「課題を解決するためにICTを活用している」	各項目肯定的評価 80%以上	100% 66.7% 66.7% 44.4%	100% 85.7% 57.2% 42.9%	89%	B	子ども達につけたい力や目標をはっきりさせることで、明確な目的をもった学び合いの設定はできている。しかし、振り返り、ICT活用が十分にできていると感じていない。1時間の授業の中で、時間配分が肝になっており、全て取組んでいくことに難しさを感じていると考える。	授業研究を中心に、授業改善を進めていく。学び合いについては、研究授業のリフレクションで焦点化して議論し、学びを深めるためのよりよい学び合いのイメージを共有して、実践につなげていく。振り返りやICT活用については、日々の実践を交流する場を定期的にもち、よりよい取組を学校全体として共有して、教職員のスキルアップを図っていく。				
豊かな心の育成	自他を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	自分や自分を取り巻く人・環境を愛し共感する力、思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	・カリキュラム・マネジメントをベースとした地域学習の積極的推進 ①地域の教材化 ②地域人材活用の推進	児童アンケートによる評価 「自分や自分のふるさとは、よいところがある」 「自分の周りの人や環境に感謝している」	各項目肯定的評価 80%以上	94% 94%	95% 97%	100%	A	前回同様、大幅に目標値を超えることができた。10月以降は、地域のボランティアさんへの感謝の会を開催したり、1～3年生で除雪基地見学に行ったりと、地域に根差した教育活動を展開することができた。児童の多くが意欲的にそれらの活動に取り組むことができた。	総合的な学習の時間や生活科を中心に、地域の力を活用できないかどうか検討しながら、授業に取り組む。地域への愛着を更に深めるために、振り返りの充実を図っていく。	○			目的を明確にした地域学習の充実が、子どもたちの郷土愛の醸成に繋がっている。
健やかな体の育成	生涯にわたる健康に対する高い意識を育て、体力の向上を図る。	「体を動かすことが楽しい」「やれば伸びる」と感じ、体力を向上させようと主体的に取り組む態度を育てる。	・体力向上PDCAサイクルの推進 ①外遊びの奨励 ②「なわとび」の推進	児童アンケートによる評価 「週3日以上、運動場や中庭で遊んでいる」 「なわとびで、跳ぶ回数やできる技が増えている」	各項目肯定的評価 80%以上	71% 61%	78% 73%	93%	B	前回よりも目標値に近づくことができた。なわとびや外遊びを学級経営に位置付けたり、委員会が取組を企画・実施したりしたことにより、児童の意欲が向上したと考える。しかし、運動に苦手意識をもち、体を動かすことの楽しさを感じることができていない児童がいる。	運動に苦手意識をもっている児童を中心に、担任等による肯定的な声掛けを行う。また、今後も体育授業の充実や委員会活動のさらなる充実を図り、体を動かす楽しさや達成感を味わわせていく。	○			楽しみながら体力向上を図る取組はとても良い。 運動が苦手な子どもがもっと好きになっていく取組をさらに期待する。
働き方改善	新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。	地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程を実現する。 教職員が健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	・コミュニティ・スクールの導入推進 ①積極的な情報発信 ②導入準備会の開催	学校だよりの発行と配付 月1回以上 コミュニティ・スクール導入準備会 学期1回以上	100%達成	100% 100%	100% 100%	100%	A	・学校だよりを月1回以上発行し、地域・保護者へ積極的に情報発信を行った。 ・コミュニティ・スクール導入に向け、計画通り3回の準備会を開催した。	・来年度も学校だよりを月1回以上発行し、積極的な情報発信を行うことで、地域に開かれた教育課程の実現に努める。 ・来年度からのコミュニティ・スクール実施に向け、計画を立てていく。	○			学校だよりは内容が充実しており、見栄えもよい。 計画的に時間確保をしておき着実に業務改善が進んでいる。 心も体も健康で生き生きとやりがいを持って働くことが教育の質の向上につながる。
			・業務改善の継続的实施 ①成績処理日の設定 ②教材研究時間の確保	市「学校における働き方取組方針」の「勤務上限目安時間」 時間外勤務時間月45h以内	100%達成	83%	96.7%	97%	B	・前期と同様、毎週水曜日の15時下校、学期末の成績処理日の設定、下校方法の確認見直し等により、教材研究や事務処理の時間の確保を行った。	・水曜日の定時退校日の完全実施や学期末の成績処理時間の確保に努めるとともに業務の取り組み方の見直しを引き続き行っていく。月の途中で職員全体の勤務時間を確認し声かけ等を行っていく。				

【j:自己評価 評価】
A:100≧(目標達成) B:80≧(ほぼ達成)<100
C:60≧(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。